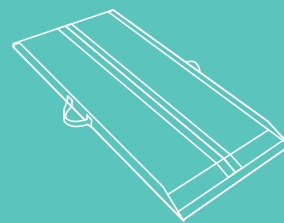


スロープガイド

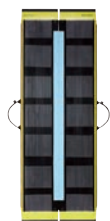
スロープは屋内外のさまざまな段差を緩やかな傾斜に変え、特に車いすのように車輪のついた用具を用いて移動する際に有効な福祉用具です。なお、福祉用具貸与には取り付けに際して工事を伴わないものに限ります。



スロープの主な種類

段差を解消するスロープには、主に以下の2つの種類があります。

一枚板タイプ



一枚板タイプのスロープの場合、介助者さまもスロープ上を歩行するのでより安定して介助ができます。また走行可能な幅に余裕があり、レールタイプのように車輪をスロープに合わせる必要がないため活用範囲が広く、電動を含めてほとんどの車いすにも対応できます。

レールタイプ



レールタイプのスロープの場合、介助者さまはスロープに乗らず地面を歩くことになるのでスロープを使用しない場合と介助者さまの高さは変わりませんが、ご利用者さまが乗る車いすはスロープ上を進むため高さが徐々に上昇／下降していきます。左右のレール幅を調整できるため狭い場所でも使用可能で、持ち運びがしやすいメリットがあります。

段差に対するスロープの必要な長さの目安

段差に対するスロープの必要な長さや傾斜角度の目安を以下に提示します。実際には車いすの車種やご利用者さまの体重、介助者さまの体力、設置場所などの諸条件を考慮に入れて検討する必要があります。

車いすで自走する場合

スロープの長さ

段差の **12** 倍



傾斜角度 5°

目安となる傾斜角度は約5°です。車いすの自走に向けたゆるやかな傾斜です。

介助者同伴で走行する場合

スロープの長さ

段差の **6** 倍



傾斜角度 10°

目安となる傾斜角度は約10°です。多くの介助者さまが比較的楽に車いすを押すことができる傾斜です。

最大傾斜

スロープの長さ

段差の **4** 倍



傾斜角度 15°

目安となる傾斜角度は約15°です。かなりの急勾配なため、これ以上の角度は危険です。

●スロープの必要な長さの算出例(段差が30cmの場合)

使用状況	スロープの必要な長さの算出
車いすで自走する場合	30cm × 12 = 長さ 360cm のスロープ
介助者同伴で走行する場合	30cm × 6 = 長さ 180cm のスロープ
最大傾斜の場合	30cm × 4 = 長さ 120cm のスロープ

●注意事項

- このガイドはあくまで目安であり、メーカーや商品によって基準が異なる場合があります。例えばダンロップホームプロダクツはダンスロープエアール・ダンスロープエアール2の最大傾斜角度を14°としています。
- 電動車いすでスロープを登坂する場合、該当機種の実用登坂角度とスロープの傾斜角度を検討し、無理がないかご確認ください。また急勾配の場合はスロープの先端が電動車いすの底に当たらないかご注意ください。

電動車いすの実用登坂角度

電動車いすや電動アシストタイプの車いすでスロープを使用する場合は耐荷重の検討はもちろん、ご使用となる機種の実用登坂角度とスロープの傾斜角度をご確認ください。

機種名	実用登坂角度
WHILL Model CK2 (P70)	10°
WHILL Model CK (P70)	10°
セニアカー ET4D (P71)	10°

機種名	実用登坂角度
JWアクティブPLUS+ Sタイプ (P71)	6°
ラスレル (P71)	10°